

9月11日(金) 全体シンポジウム (国際会議場井深大記念ホール)

大学英語教育と大学設置基準の大綱化

University English Education and the *Monbusho's*
Revised Standards

司 会 五十嵐 康男 (成城大学)
提案者 示村 悦二郎 (早稲田大学)
山本 利治 (京都大学)
田中 慎也 (文教大学)

大綱化は大学にどのような結果をもたらすのか、全国の大学で検討中のこの課題は希望と不安の二面をもっている。JACET は、創立以来、大学における英語教育の改善を目指してきたが、心あるものにとって大綱化は励ましとなることだろう。しかし改革に熱意あるものにとっても、その実行は痛みと苦しみを伴うかもしれない。本シンポジウムでは、すでに実行プランを完成した大学や、現在計画が進行中の大学の具体的な情報と関連づけながら、どのような理念が必要なのか、またどのような改革の実行が可能なのかを、明らかにしていきたい。

示村氏は大学基準協会の委員で「大学の自己点検・評価の手引き」作成に関与された。大学の教務部長も経験された。主として全体的な視野からのお話しを伺う。

山本氏は京都大学教養部の改革に重要な役割を果たされた。総合人間学部はこの十月に発足する。京大の理念、現実をもとにお話しして頂く。

田中氏はJACET 教育問題研究委員会の委員長であり、今回の大綱化に関する「ハンドブック」の作成に当たられた。全国各大学のケースをもとに話して頂く。

会の進行は、まず各講師に15分ずつお話しして頂き、その後フロアから質疑とコメントを頂く。残り20～30分でまとめを行う予定。